

2012年度 JFE システムズ株式会社決算説明会 議事録

JFE システムズ株式会社

【決算ハイライト】

1. 2012年度決算概況

- ・ 事業環境について、2012年10月の第二四半期の決算発表時点で上期に景気回復の手ごたえがあったため売上上方修正の計画としたが、その後秋以降に景況が横ばいとなり今回の決算を迎えた。2013年度は景気回復の動きは見られるものの、情報サービス産業への波及度合いはまだ不透明である。また、当社の親会社である JFE スチール(株)は2013年4月25日現在、収益改善活動に取り組み中である。
- ・ 上記事業環境にもかかわらず、12年度決算は対前期増収増益となった。売上は、鉄鋼事業では▲3億の減収となったが、子会社の増収に加え、外販事業の製造流通向け部門での+13億の増収などにより、外販事業トータルでは、+10億の増収となった。施策として、鉄鋼部門の要員の外販部門シフトを積極的に実施したことが、外販事業の拡大につながった。経常利益は+0.9億円の増益となった。鉄鋼部門の売上減・利益率低下といった減益要因はあったが、一方で外販事業・子会社の収益向上により増益となった。
- ・ 対前回発表計画との比較では、売上は▲4.6億円の減収となった。原因は対前回発表計画時に当初計画に対して+9億の上方修正を行ったためであり、当初計画と比較すると+4億円/年の達成ということになる。
- ・ 当期純利益の対前年増加幅が大きくなったのは、昨年度に税率変更に伴う繰延税金資産の取崩しがあったためである。

2. 2013年度業績見通し

- ・ 鉄鋼部門について、売上拡大の大きな期待は見込めず、子会社も横ばいと見込まれる中で、外販事業を伸ばして増収増益とする計画としている。
- ・ 売上は対前年+3.6億増収、経常利益は+0.9億増益の計画であり、外販事業の内製造流通向け、電子帳票、食品で増収を見込む。
- ・ 経常利益は+0.9億の増益の計画である。基盤技術の拡大を図り、戦略投資を行う。当期利益は、ほぼ横ばいの計画である。
- ・ 売上高推移については、
 - ①「2011年に2008年レベルに戻り、2012年に2007年レベルに届いた」
 - ②「エクサとの統合もあり、リーマンショック以前の水準に戻った」という状況認識である。
- ・ 鉄鋼向け事業の収益環境が厳しい中、対中期の観点で見れば「1年遅れ」の状況である。今後の鉄鋼向けの好転を期待しつつ、子会社・外販事業を更に伸ばしていきたい。

3. 競争力強化への取り組み

- ・ 競争力強化の全体感は、「鉄鋼事業で培った技術をベースに、SI とプロダクトソリューションを展開、更に複合ソリューションへと向かう」である。例えば、鉄鋼部門で行った開発標準統一が、データ移行ソリューションとして金融事業に活かされたり、JFE スチール タイでのシステム構築が複合ソリューションに活かされる、ということを広げていきたい。戦略投資は継続し、成長プロセスへ向かう原資とする。
- ・ 鉄鋼システムでは、現状 JFE スチールの営業／購買システムは『J-Smile』で1本化しているが、生産～出荷などで一部各製鉄所毎にシステムがバラバラなので、横軸を通していきたい
- ・ 製造流通ビジネスの強化については、鉄鋼部門要員の外販シフト・上流人材育成やソリューション拡充などによりさらに顧客のニーズに応じていきたい。自動車は2010年度以降+14億円の売上増である。新規顧客開拓は、基幹システム複合ソリューションでの2012年度の伸びが大きい。更に伸ばしたい。ERP を核に、周辺をとりまく形で顧客に当社ソリューションを提供していく事例をご提案する。
- ・ プロダクト事業については、電子帳票ソリューションと食品業向けソリューションを10億超えのビジネスモデルとして安定的に成長させたい。電子帳票ソリューションは新たな適用分野の創出、食品業向けソリューションは『MerQurius (メルクリウス)』ブランドの浸透と、ネットサービスの拡大がポイントである。
- ・ 競争力強化に向け、まだまだ縦割り組織である自社組織を、部門を超えた情報交換・ナレッジ共有が更に行えるようにする取り組みも合わせて実施していく。

【質疑応答】

Q1) 決算説明会資料「2013年度見通し 経常利益増減の要因」に、「**” 全社戦略推進のための投資増（基盤ビジネス拡大のための投資等）”**とあるが、基盤ビジネス拡大のための投資とは、具体的にはどういった内容か。また、**JFE システムズ**における自動車ビジネスとは具体的にはどのようなものか。

A1) 基盤ビジネスについては、仮想化・クラウド技術への投資を行うことで、お客様がよりコストを下げ、アプリケーションを搭載できるプラットフォームを提供していきたいと考えている。また、自動車向けビジネスでは、鉄鋼システム開発の経験を活かせる「生産プロセス管理」、「品質管理領域」を中心に参入し、徐々に担当領域を拡大している。

Q2) アベノミクスによる直近の景気回復が情報システム産業へどのように波及するかは不透明とのことだが、今後も景況が良くなれば**JFE システムズ**の収益にもプラスの影響が出ると考えて良いか。

A2) 去年は上期の景況感は良かったが下期になって悪くなった。2013年4月末時点の日経平均株価や為替相場を見る限り景況感は改善してきており、引き合いにも手ごたえを感じるが、実際にどの程度業績に結びつくかは慎重に見極めたい。

Q3) 食品業の企業間連携サービス『**MerQurius Net**』について、現在何社が参画しているのか。

A3) 『**MerQurius Net**』は当社顧客の食品メーカー10数社と共同で仕組みづくりを行っており、現時点では仕組み作りに参画中のお客様に加入いただいている。2013年度は20～30社を目標に参加企業を増やしていきたいと考えている。

以上